

「明るさ&涼しさを実感できるハウス被覆資材」

作物に最適、人にもやさしい「タキイホワイト」

(編集部)



↑「金森さんはどんな作物に対してもまず栽培、そしてデータも蓄積されるんですよ。私も金森さんを信頼しているのだから、新しい品種はまず試作してください」と、(株)イケカク種苗の池田会長(右)と金森さん。

●ご存知ですか? 「タキイホワイト」

「タキイホワイト」は平成11年に発売されて以来、皆さんから好評をいただいている遮熱・遮光ネットで、「タキイホワイト65」の発売を皮切りに、「タキイホワイト45」「タキイホワイト30」の3タイプが揃っています。従来の遮光ネットでは、ネットを張って温度を下げようとするとハウス内が暗くなり、作物の軟弱徒長が見られるなどの問題がありました。が、「タキイホワイト」は、日光を多くハウス内に入れたがら温度を下げる(「明るくて涼しい」)ことが可能な被覆資材となっています。



↑「坂の町」尾道は岡山市と広島市の中間にある市で、尾道水道を挟んだ対岸には向島があり、落ち着いた雰囲気漂う。

広島県は尾道市で農業を営まれている金森さんは「タキイホワイト」発売当初からの愛用者で、この資材を活用したハウレンソウ栽培をはじめ、ニンジンや葉ネギを周年にわたり栽培されています。

●愛用の資材と土づくりが栽培の基本

「栽培は土づくりから」をモットーに、土づくりにも重きを置かれている金森さんは、農業をできるだけ使わないことを前提に、「バイオダルマ」や「ネオハイガユーキ」などを入れて有機質に富んだ土づくりを行っておられます。また、ハウス内にはパイプを通し、ほどよい水量がそこから出るように工夫。これは金森さんが「打ち水灌水」といわれている方法で、急激に水分を与えるのではなく、じんわりとした水分を与えることが可能になっているそうです。

「ハウレンソウに限らずですが、バイオダルマやネオハイガユーキを使い続けているうちに、センチュウ被害のない腐植率の高い良質の土壌、有機質に富み健康的な土壌を確保できたよう

に思います」という金森さん。そんな土壌で栽培されたハウレンソウは、直売所でも好評の味なのだそう。

●実感! 作物に、そして、人にもやさしい 「タキイホワイト」

地元の生産者仲間や種苗店からも栽培に関する地道な努力・工夫を認められている金森さんは、いかなれば生産者仲間の中の先生。確かな栽培の裏側で、栽培に関するデータをこまめに取られているところも、周囲の人たちから信頼される要素になっています。そんな金森さんは、周年栽培のハウレンソウで6〜10月の間「タキイホワイト」を利用されています。6〜10月といえ



↑金森さんはパイプハウス(間口7.2m×24m)で農ビの上に「タキイホワイト」を外張り。データを蓄積された結果、6〜10月のハウレンソウ栽培で「タキイホワイト」を使用されている。



↑播種後10日ほど経ったハウレンソウの生育状況(写真は11月末のハウレンソウ)。

ば高温で生育が劣るため通常では栽培が難しい時期、そして、平地でありながら夏場に収穫ができるというのも、「タキイホワイト」を利用することでハウレンソウが徒長することもなく順調に生育できるからです。「タキイホワイト」の利点を今一度お聞きすると、「作物の生育にとってやさしいってことももちろんあるけれど、作業をする人間にとってもやさしい資材ですね。長く栽培に携わっていると、なおさら夏場のハウスでの作業は身にしみて過酷なものです。張った場合と張らない場合では温度にして3〜4℃は違ってくるので、ネットの使用は不可欠ですよ」と、御年88歳の落ち着いた口調でお話いただきました。

皆さんも、今年の夏は「タキイホワイト」の下、作物に最適、人にもやさしく快適なハウス環境で作物を栽培しませんか?